

記録映画アーカイブ・プロジェクト 第1回ワークショップ

記録映画のアーカイブを活用して、映像を用いた多様な研究の可能性を再発見する連続ワークショップ、その第2回は、岩波映画製作所のコレクションのなかから、戦後日本を代表する産業映画のひとつ『佐久間ダム』を取り上げ、映像と戦後史の関係を検証します。

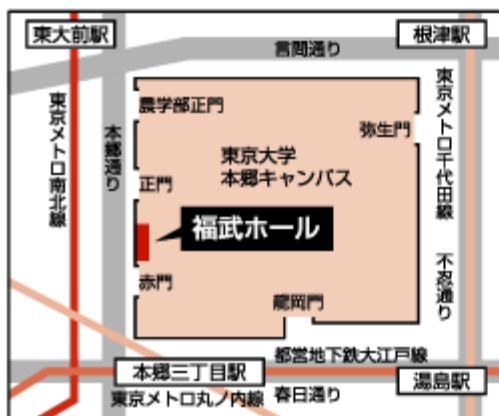
戦後日本で最初の巨大開発プロジェクトとして知られる佐久間ダムは、1953年に着工し、1956年に完成しました。この巨大ダムは当時「東洋一」の規模と謳われ、日本の戦後復興の象徴ともなりました。

この巨大ダム建設の全過程を記録した岩波映画『佐久間ダム』シリーズ(第1部、第2部、第3部、総集編)は、ダム建設を壮大な視覚的スペクタクルとして描き出し、産業映画としては異例の興行的成功を収めました。

『佐久間ダム』が映し出したダム開発のイメージは戦後の日本社会に何をもたらしたのか。この映画をいま改めて見直すことで何が見えてくるのか。今回のワークショップでは、日本が戦後復興から高度経済成長へと向かうなかで、このユニークなダム映画が果たした役割について議論します。

当時全国で300万人もの観客が見たと言われる『佐久間ダム 第1部』の原版は、残念ながら『総集編』製作のために解体され、失われてしまいました。今回は、55年前に複製された16ミリフィルムを使って、この幻の第1部を上映します。

<会場地図>



最寄り駅からの所要時間

- 都営大江戸線 本郷三丁目駅
徒歩7分
- 東京メトロ丸ノ内線 本郷三丁目駅
徒歩8分
- 東京メトロ千代田線 湯島駅
徒歩20分
- 東京メトロ南北線 東大前駅
徒歩10分

お問い合わせ

記録映画保存センター
tel 03-3222-4249
mail archive-p@kirokueiga-hozon.jp

記録映画アーカイブ・プロジェクト

「イメージとしての開発～岩波映画・佐久間ダムを見る～」

第1回ワークショップ

日時:2009年5月23日(土)14:00～18:00(開場は13:30)

場所:東京大学本郷キャンパス 情報学環・福武ホール(赤門横)

福武ラーニングシアター(B2F)

主催:東京大学大学院情報学環(記録映画アーカイブ・プロジェクト)

協力:記録映画保存センター

ゲスト:小村静夫(元岩波映画製作所カメラマン)

藤井仁子(早稲田大学)

町村敬志(一橋大学)

入場無料・HPにて事前登録制 または電話申し込み 03-3222-4249

プログラム

13:30	開場・受付開始
14:00	開会 総合司会:丹羽美之(東京大学)
14:10	映画『佐久間ダム』を見る 『佐久間ダム 第1部』上映(40分) 16ミリ映写 * 赤く退色した16ミリプリントでの上映となりますことをご了承ください。 『佐久間ダム 総集編』の第一部に当たる部分上映(20分)
15:10	休憩
15:30	パネル・ディスカッション パネリスト:小村静夫(元岩波映画製作所カメラマン) 藤井仁子(早稲田大学) 町村敬志(一橋大学) コーディネーター:鳥羽耕史(徳島大学) 聞き手:筒井武文(東京藝術大学)
18:00	終了